

建設企業常任委員会行政視察概要

令和4年7月22日（金）

於 名古屋市会 議会運営委員会室

午前10時～午前10時50分

1 調査概要

「市営住宅の活用について」

名古屋市住宅都市局住宅部住宅管理課施設活用係長

住宅都市局住宅部住宅管理課主査

○ナゴヤ家ホーム（市営住宅の高齢者共同居住事業）

60歳以上の高齢単身者が、NPO法人等の支援を受けながら、市営住宅の世帯向け住戸で共同居住するもので、市営住宅における入居者の孤立死防止や高齢単身者の入居機会拡大への対応策として平成24年から本格実施している。

制度としては、名古屋市が整備した市営住宅を公募により事業運営者として決定したNPO法人等に目的外使用許可を行い、NPO法人等は市と協力して入居者を募集し、入居契約を行う。入居者相互の見守りとNPO法人等の見守り等サービスにより、孤立死の防止を図るものである。

住戸タイプは3人入居用と2人入居用の2種類で、管理戸数は3人用×8戸（2団地）、2人用×4戸（1団地）の計12戸、最大入居者数32人を整備。

NPO法人等による訪問見守りと日常生活相談等のサービスについては、訪問回数によって料金が違うが、4段階から選択できる。

家賃は、専用部分の家賃＋共用部分の家賃を入居人数で割った金額＋見守り等サービス料である。

その他、共用スペースにはテレビ、冷蔵庫、エアコンなどの備品を設置、自治会への加入は必須となっている。

○市営高坂荘リノベーション住宅（子育て若年世帯向け）

市営住宅では、入居者の高齢化が進展し、自治会活動の担い手不足が課題となっている。これらを改善するため、名古屋市では若年世帯向けに4つの住戸を改修し、

住民交流スペースも新たに設けている。

一定以上の所得のある世帯で中学校終了前の子供がいる世帯、または夫婦世帯のみで共に35歳以下の世帯を対象に、地域活動に積極的に参加することなどを条件に入居者を募集している。

モデルルームのトータルコーディネートをホームセンターの「カインズ」が行い、子育て世代に魅力ある住まいを提案することで、子育て世代の入居促進と地域コミュニティの活性化を目指している。



2 主な質疑応答

問 高齢者共同居住住宅で1戸1名のところがあるがどうしてか。1人になると退去を求められるのか。

答 もともと2名で暮らしていたが、身体を悪くして退去してしまわれた。1人利になっても退去は求めている。

問 共同生活を送る中で関係が悪くなっていくこともあると思うが、どういった対策をとっているか。

答 当人同士だと解決が難しいこともあるので、見守りサービスとしてNPO法人が間に入って仲立ちを行ったり、ルール作りに協力をしている。

問 気心の知れたもの同士が入るパターンが多いか。

答 友人同士で入ることが多いが、それだけだと入居者が増えないため、定期的に交流会を開いて食事やお茶を飲みながら交流してもらい、気の合う仲間を探す活動も行っている。

問 入居する際、性別の制限はあるか。

答 入居するには同じ性別に限っている。

以上